

帯広

開拓140年 市制90年

帯広市は今年、開拓140年・市制施行90年を迎えた。冷害や天災、戦争など幾多の困難を乗り越え、先人が築き上げた帯広は、農業を中心とした産業・経済・教育・文化などの多様な都市機能が集積する十勝・東北海道の開拓都市として、今なお発展を続けている。

民主主体の開発特長

帯広はもとより、アイヌたちが主に川沿いに集落をつくり狩猟と植物採取中心に、官主導の屯田兵により開拓さ

れたが、帯広は民間主体で未開の原野を切り開いていった。1902年に「級町村制」、15年に「一級町村制」が施行さ

れ、33年に道内7番目の市としてスタートした。当時の人口は約3万2000人で、57年には川西、大正両村と合併し、約10万人となった。

「総計」の先駆け

向うや市街地を囲む帯広の森の造成、都心部の整備などを進めてきた。おおよそ10年ごとの計画は現在7期目（2026年度から10年間）を迎えている。

市人口、道内5位
人口は2001年1月末の17万5174人をピークに年々減少しているが、農業を核とした産業基盤を背景に、道内他都市と比べて減少率は緩やかに推移。20年12月末時点で創設市を上回り、道内5位に浮上し、今年9月末時点で16万4378人となっている。

高速道路の整備が進み、道内各圏域との結節点に位置する帯広は、ビジネスや物流、交流などの拠点として、これまで以上に大きな役割を担っていくことが期待される。

来月1日 記念式典

開拓140年・市制施行90年記念式典は11月1日午前10時から、帯広市民文化ホールで開かれる。

第一部では帯広の歴史を映像で振り返り、市功労者の表彰を行う。第二部では大空学園義務教育学校の生徒が学校生活や未来の自分へのメッセージなどを語るほか、豊成小学校合唱部による合唱や、帯広郷土芸能平原太鼓による太鼓演奏が行われる。

式典の模様は帯広シティケーブル（OCTV）と市の公式YouTubeで生中継・配信する。



開拓140年・市制施行90年を迎えた帯広市中心部。鉄道高架で交通の利便性が高まり、都心部はオフィスビルや店舗、ホテルなどの整備が進んだ（上からプラザ上空からドローンで撮影）

東北海道の中心都市に



140年で大きな変化を遂げた帯広のまちなみ（写真右は西側、同左上は南側、同左下は東側）



安心と安全の
帯広かわにしはの
農畜産物

- 十勝川西長いも
- ばれいしょ
- 小麦
- 豆類
- グリーンアスパラ
- スイートコーン
- 長ねぎ
- 玉ねぎ
- 百合根
- キャベツ
- 肉牛
- 牛乳
- 養豚

日本の食料生産基地として、安全で安心な農畜産物を提供しています。

JA帯広かわにしは、
十勝から安全、安心をお届けします。

命をかけて拓いた。
何度も失敗した。
でも、あきらめなかった。
「美味しい作物をつくりたい」
受け継がれた土のなかに、
今も生きている想い。

www.ja-taisho.com

帯広大正農業協同組合
JA Obihiro TAISHO
〒089-1241 帯広市大正本町東1条2丁目1
代表理事組合長 森 和 裕